

いつくしみ

森野 水琴

とあるビルの一室で彼は生活相談室を開設している。

生活相談といっても、生活資金に困った人ばかりではない。

最近では、居場所を求めて来訪する人もいる。

三十分面談するだけでも満足できる人は、定期的に来訪するようになる。

閉ざしていた心が解けたかのような表情で訪問者は帰っていく。

ある冬の日、ロコミによつてか、ひとりの女性が訪ねてきた。

入口にたたずむ女性の表情を暗くさせているのは、寒さのせいだけではなさそうだ。

幸いなことにほかの予約が入っていない日だったので、女性の話を聴く時間はたっぷりある。

彼は女性にささやく

ここに来て 暖まるといいでしょう